

第15回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和5年12月21日(木)
開会13時30分 閉会15時07分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|------------|
| 教育長 | 鍵本 芳明 |
| 委員(教育長職務代理者) | 田野 美佐 |
| 委員(教育長職務代理者) | 梶谷 俊介 |
| 委員 | 松田 欣也 |
| 委員 | 上地 玲子 |
| 委員 | 服部 俊也 |
| 教育次長 | 國重 良樹 |
| 教育次長 | 田中 秀和 |
| 学校教育推進監 | 中村 正芳 |
| 教育政策課 | 課長 小林 伸明 |
| | 副課長 中江 岳 |
| | 総括主幹 石崎 貴史 |
| 財務課 | 課長 朝倉 尉雄 |
| 教職員課 | 課長 鈴鹿 貴久 |
| 高校教育課 | 課長 鶴海 尚也 |
| 高校魅力化推進室 | 室長 室 貴由輝 |
- 4 傍聴の状況 1名
- 5 附議事項
- (1) 公立学校長の人事異動について
 - (2) 公立高等学校の分校の設置について
- 6 報告事項
- (1) 令和5年度11月補正予算(追加分)について
 - (2) 韓国・慶尚南道教育庁への訪問について
 - (3) One Young World グローバルサミット2023への生徒派遣の概要について
 - (4) 進学希望状況第一次調査結果について
- 7 その他

8 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本件議題に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。附議事項（１）は人事案件であるため、教育委員会会議規則第１２条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。附議事項（１）は非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙手

(教育長)

全会一致により本案件は非公開とすることに決した。

附議事項（２）公立高等学校の分校の設置について

○高校魅力化推進室長より一括説明

(委員)

来年度から分校を設置し、令和９年度に精思高校と市立玉島高校が統合され、精思高校の場所が変わると思ってよいか。

(高校魅力化推進室長)

その通りである。市立玉島高校と精思高校を統合した学校を連島地区の霞丘小学校の跡地に統合校として設置する。ただし、統合校設置前に市立玉島高校が先に募集停止するため、玉島地区の昼間定時制のニーズ対応として、精思高校の分校を設置し、教育活動を展開する。

(委員)

市立玉島高校・精思高校の統合校の正式な名前は決まっていないのか。

(高校魅力化推進室長)

決まっていない。

統合の背景としては、市立玉島高校が、非常に老朽化が進んでおり、耐震化ができていない。そのため早い段階での移転もしくは、改築が必要であったと聞いている。

(委員)

市立玉島高校の夜間商業科がなくなり、精思高校の夜間商業科もなくなるということ

は、統合校には夜間商業科がなくなると思っています。

(高校魅力化推進室長)

現在の計画では、そのようになっています。

(委員)

夜間のニーズは少なくなっているのか。

(高校魅力化推進室長)

市立高校の夜間については、年々生徒数も減少しており、以前のように勤労学生も多くない。

現在の市立玉島高校の生徒数は、2年生17名、3年生5名となっている。

(教育長)

倉敷市に限らず、企業の労働者の勉強の場という形で設立された歴史的な経緯がある。近年は変わってきた。

(高校魅力化推進室長)

児島地区は、現在、倉敷市立倉敷翔南高校があるが、統合前は、市立の南海高校と児島高校、児島第一高校であり、児島高校と南海高校は夜間だった。両校とも当時の児島の繊維工場に昼間勤務して、勤務終了後に定時制高校に1学年100名を超える生徒が通っていた。平成になってから勤労学生がいなくなる一方、不登校などが理由で全日制普通科等に通えなかった生徒が入ってくるようになり、1クラス数名の状態が続き再編が進んだ背景がある。

(委員)

今回の統合による生徒への影響はどのようなものがあるのか。

(高校魅力化推進室長)

通学する生徒はそういないが、玉島地区の住民に限れば、川を渡って連島地区に行くため、不便になることは多少考えられる。一方、連島地区で定時制を利用する生徒からすると利便性が高くなる。

(委員)

生徒数が増えることもあるか。

(高校魅力化推進室長)

増えるかもしれないが、令和9年度以降については、倉敷駅から徒歩圏内であった精思高校から比べれば、利便性が少し悪くなる側面もあると思う。

(教育長)

採決に入る。第15号について、原案に賛成の委員は挙手を願う。

(委員全員)

挙手

(教育長)

全会一致により、第15号は原案のとおり決した。

報告事項（１）令和５年度１１月補正予算（追加分）について

○財務課長より一括説明

（委員）

今回の補正予算は最近の物価高騰も加味して措置するものか。

（財務課長）

今回要求している事業は、物価高騰対策のための事業というより経済対策のための事業であり、教育分野について国の補助事業に手を挙げていくものである。

（委員）

人権教育指導費で性被害防止対策支援事業を計上しているが、具体的にはどのような内容か。

（財務課長）

性被害の未然防止の観点からプライバシーの保護のために教室内を仕切るパーティション等の整備を行うものである。

報告事項（２）韓国・慶尚南道教育庁への訪問について

○高校教育課長より一括説明

（委員）

オンライン交流の際に言語は何を使って交流するのか。

（高校教育課長）

韓国との交流に関しては、英語を基本にしたいと考えている。

日本より韓国のほうが英語の教育レベルが高いと思うので、英語で交流して、高いレベルに追いついていけるようになってもらえたらと思う。

（委員）

オンラインの交流の状況で韓国と４校交流しているが、その内、慶尚南道にある学校と交流している学校はあるのか。

（高校教育課長）

３校である。一宮・城東・和気閑谷は慶尚南道に姉妹校を持っており、その姉妹校を相手に交流している。高松農業高校については、慶尚南道以外のエリアにある農業高校と姉妹校提携を結んでいる。農業高校を対象に探したため、慶尚南道以外となった。

（委員）

オンライン交流を増やす予定はあるのか。

（高校教育課長）

ある。現在３９校であり、全５２校まで広げていかなければならない。慶尚南道に行き、日本側との交流を売り込みたい。今回の訪問の主目的は交流校を増やすお願いである。

(教育長)

全校がどこかの海外の学校と交流できることを、我々の目標としている。現在39校で全校の52校まであともう少し残っている。先日知事が南オーストラリア州を訪問した際、オンライン交流も話題にのぼり、現在先方と交渉中である。韓国についても直接、教育監にお願いする予定である。オンラインがきっかけとしては一番いいのではないかと思う。韓国はICTも英語も日本より進んでおり、今回の訪問で取組を拝見しながらお願いし、繋がりを作っていききたい。

(委員)

行き来をする国際交流は年間どのくらいの頻度で行っているのか。

(高校教育課長)

教育委員会職員で言うと、韓国との交流のみである。

教員の交流で言えば、南オーストラリア州へ1年間派遣している取組も行っている。

以前と比べて、教員が実際に海外で研修をする機会は、新型コロナの影響もあるが、だんだん機会が少なくなっているのが現状である。

(教育長)

今の話は教育委員会での話であり、今週、岡山工業高校が台湾にある岡山高級農工職業学校と姉妹校の協定調印式を行った。新聞等にたくさん取り上げていただいた。ほかにも岡山東商業高校は、グアムの学校とオンラインで調印式を行い、倉敷南高校は南ニュージーランドのカシミア高校の生徒が来日し、交流を行っている。

学校単位でも動いている。県教委が全部把握できないくらい交流を行っている。

短期留学はピーク時で380名程度の生徒が行っていた。今、コロナの影響もあり、落ち込んでいるが、また戻ってくると思っている。しかし、燃料費などが高騰していることが懸念事項である。

(委員)

やり方などは色々あると思うが、定量的に毎年比較し、集計していけば、学生へ良いアピールになるのではないかと。予算など障壁はあるだろうが、ぜひ交流を積極的に行ってほしい。

(教育長)

国際関係で指標にしている数値はオンラインで交流する学校数もあるが、短期長期の海外留学へ行っている生徒の数もある。これらの数値を増やしていくように頑張りたい。

(委員)

韓国のほうが、英語教育やICT教育が進んでいると話があったが、日本にあるような教員同士の研究会を通して、教師の交流も必要なのではないと思うがいかがか。

(高校教育課長)

現状は行動に移せていない。1つできたらいいなと思うのが、探究活動に日本は力を入れている。探究活動をお互いに共有、場合によっては共同研究として進めていくことだ。その様子を教員が見ていれば、韓国の教育システムの内容や、いい面・自分たちが優れて

いる面も見えてくるのではないかと思う。そうしたところから始めていければよいのではと思った。

当然、教育内容・システムが異なることは仕方ないが、交流し、子どもの学びに良いところは、積極的に取り入れていくべきだと思うし、そういった観点も意識して交流を深めていけたらよいと思う。

(教育長)

先般、邑久高校の生徒が牡蠣殻を使った農業の研究を行っていたのを、韓国の方が見つけて、成果を共有したいと言われた。元々は日本語で行ったプレゼンを英語で行う等のやりとりを行った。また、岡山城東高校が今回日本一になったポスターセッションで、英語教育について生徒が発表しているが、韓国と比較していた。韓国の英語の学びと日本の英語の学びを比較して、日本の英語の学びには課題があることを発表したの、韓国に行く前に話しをしてみて、ぜひ参考にしたいと思うし、これを話題にし、英語教育の日本における課題をぜひ聞き取ってきたい。

(委員)

教員が国際的な教育の考え方を踏まえながら、自分の教育の在り方を見直す機会にしてもらい、ぜひ検討いただきたい。

(委員)

高校は各自で姉妹校を見つけてきているのか。

(高校教育課長)

個々の学校がそれぞれ見つけてくることもあるが、かなりハードルが高い。そのため昨年度から高校教育課内にオンライン交流コーディネーターを配置しており、支援を行っている。

(委員)

すごくいいと思う。ぜひ、全ての学校が交流できる様にしてもらいたい。ただ、高校によっては、姉妹校提携していても、特定の学年だけがオンライン交流をするような限られた交流をしている学校がある。他学年も常には難しいかもしれないが、限られた学年だけがオンライン交流をするのではなく、もっと活発にできるようになってほしい。

(委員)

県立高校が立地する市町村が提携している姉妹都市との交流はどの程度あるのか。姉妹都市との交流と結びついてはどうか。

(教育長)

さきほどの倉敷南高校や高梁高校のフランス・リヨンとの繋がり立地する基礎自治体が姉妹都市として交流をしているからである。

この経験は、中学生もいい経験にはなるが、交流となると高校程度の英語力が必要になってくる。県が全て行うより、市町村もうまく活用させてもらうのもよいと思う。

(委員)

市町村と一緒にいましょうという声掛けは県教委から行ってもよいのではないかと

思う。

(委員)

高校生で交流に行きたいと手をあげる生徒の割合はどのくらいなのか。

手をあげる生徒が少ないのであれば、どうしたら増えるのか。その施策は。

(高校教育課長)

コロナ前の短期留学した高校生は380名であった。実際に行きたいという気持ちを持っている高校生がどの程度いるのかは把握していない。行きたい気持ちがあるが、経済的な部分の問題で行かないと思うことについては、留学の支援金を現在出しており、ハードルを少しでも下げようとしている。

留学に行ってみると多くが行ってよかったという感想を持つ。その感想等を広く伝えるために留学促進フェア等のイベントで情報提供するなどの機会を少しでも増やしていこうと今取り組みを進めているところである。

1番のハードルは経済的な問題だと思っているので、できる限り価格が低い留学プランを旅行会社に企画してもらっている。

一方で、各学校に聞いてみるとコロナが収束して、留学の希望者数は増えてきたかと聞くと、確かに費用は上がっているが、これまでにないような多くの希望者が出てきているという声も聞いている。

(教育長)

いきなり留学は恥ずかしがり屋の子が多い日本では難しい。先にオンラインでつながりを作っておくことでハードルが下がるのではないかと考えており、オンライン交流をしっかりと活用していきたいと思う。

また、岡山工業と台湾の話になるが、岡山繋がりというのも面白いが、お互いに工業高校であるため、建築が専門の生徒同士が岡山にある特徴的な建築物を紹介し合っている。日常生活の会話もいいが、勉強したことをお互いに紹介し合って、刺激を受けてもらうこともいいのではないかと思う。今回韓国に行って農業高校同士、工業高校同士で交流ができないかお願いをしてきたい。たどたどしい英語でもいいので、自分たちがお互いに勉強したことを紹介できることが大事ではないか。それが国際交流にも繋がってくるのではないかと思う。

報告事項(3) One Young World グローバルサミット 2023 への生徒派遣の概要について

○高校教育課長より一括説明

(委員)

高校生の立場で世界に目を向けて発表できることはとてもいい経験ではないかと思う。会場に集まっている人の中で18歳は珍しいようだが、参加者は、どのような人で構成されているのか。

(高校教育課長)

日本からの100名を超える参加者には、大学生や高校生も含まれてはいたが、大半は企業の若手社員が多かったと聞いている。

(委員)

もう少し上の世代が行ったほうが実は得るものが大きいのではないかと。来年以降も派遣するのであれば、人選を考えてほしい。

(高校教育課長)

今年度初めて高校生を派遣した。対象が18歳以上なので、募集の際に受験が1つの障壁になるのではないかと考えたが、応募があった4人は受験勉強に取り組む一方で、それぞれやりたいこと・夢を明確に持っており、その中からの選考となった。来年度はいろいろな高校生の夢や、やりたいプロジェクトなどを共有、明確にした上でそれを世界に向けて発信できる形にし、今年以上に派遣生徒がサミット場で語る内容について、準備していく必要があると考えている。

(教育長)

今回派遣生徒とともに参加した岡山大学の学生も起業している。サミットに参加している若者は、会社の中で自分がやりたいことを持っている人・それに向けてもうすでに自分で動き始めている人が多いのではないかと。そうした中で、刺激を受けて、従来の型にはまることが多い日本人ではなく、自分で動きを作ることができるような人を岡山からも輩出していきたいと思う。

(委員)

イノベーションコンテストに出場している高校生が参加するということがあってもよいのではないかと。

(教育長)

今回イノベーションコンテストでグランプリを取った人は、岡山大学に在籍中に One Young World に参加した人であった。

そうした広がりにつなげていくには良い派遣だったと思う。

(委員)

派遣した後に大学受験を控えているが、今回の派遣した経験を次につなげていくことが課題ではないか。岡山にいれば県教委が主催するイベントに参加しやすいが、県外に進学してしまうとなかなか参加が難しいのではないかと。

(高校教育課長)

One Young World の参加者は、One Young World アンバサダーとして、普及活動に関わる使命がある。

県の代表として派遣しており、募集の段階から県の普及活動に関わってもらうことを条件として説明している。派遣した生徒も、地元の岡山には大変思いがあり、普及活動に関わると言っている。

報告事項（４）進学希望状況第一次調査結果について

○高校魅力化推進室長より一括説明

（委員）

表の前年出願率とはどういう意味か。

（高校魅力化推進室長）

前年出願率は一般入学者選抜の募集定員に対しての倍率である。

前年度の実数である。募集定員に対する割合の本調査で示している倍率は、12月1日現在の倍率予想であり、前年調査の欄も昨年12月1日時点のものを挙げている。

（委員）

県立の倍率が下がって、私学が上がっていつている理由はなにか。

（高校魅力化推進室長）

近年の傾向で、以前と比べると就学支援金の影響で授業料が安くなったことが挙げられる。

また、私立の学校の特色作りが進んでいることも要因と考えられる。

私立の特別進学コースを例にすると、コースを細かく分けてそれぞれの目的に合わせて内容を変えてきている。コースを細かく分けることでコースごとの生徒の納得感・達成感があるのではないかと思う。

あと、都市部に私学はあり、県立も同じで岡山市・倉敷市にある大規模校は倍率も高い。

都市部の流れもあわせて考えていかなければならない。

（教育長）

数としては多くないが、広域通信制が近年伸びている。不登校の生徒の一つの学びの場ではあるが、安易に選んでいる子どもたちも多く心配している。

また、反省すべき点は、私学に対して県立は魅力作りや学校改革と言っているも旧態依然で遅かった。

大学入試が変化している中で私学は対応をしていたが、県立は対応が十分でできていなかった。馬力がある校長先生を中心に学校を変えていこうとしている学校は、大学入試だけではないが、進学希望者に反映してきているところもある。思い切ったことをしている学校を教育委員会として、後押ししていかなければならないと思う。

（委員）

入試が全てではなく、基礎学力をいかにして進めていくかという県立学校の立場もしっかり押さえないといけない。しかし、学校の魅力化を進めていかなければならない。

（高校魅力化推進室長）

普通科高校は学区制があり、市街地周辺地域の普通科は軒並み定員を割っている。

平成の再編整備を経ており、現在残っている普通科進学拠点校は都市部と同じ勉強の仕方をして、国公立に何人合格したかという物差しで測ってきたが、市街地周辺地域の子どもの数の減少は著しい。都市部の大規模の進学校のほうが進学実績もよく、塾などの機能も都市部が充実しており、上位層が都市部の学校に行き、残った層に実績を求めるがた

めに上位層と同じ量の補習や課題を課し、負荷をかけることで逆に地域の生徒が選択しない悪循環が起こっている。周辺部の普通科高校には学区があるために、都市部の岡山倉敷から生徒が入学できなかったのが、今年教育委員会で小規模校の学区を緩和できるようにしていただいた。

教育委員会として必要な措置は行っているが、都市部の学校ではできないことを小規模校だからしてもらい、大学入試の総合型選抜に対応した探求活動に特化するなど、都市部周辺の小規模化している普通科には魅力化の後押しをしているところである。

(委員)

私学の通信制の倍率が上がっている。通信制は1人の教員の抱える生徒の数が多いため、その点では小規模校は手厚く生徒をケアできるはずである。また、通信制の学校は広報が上手い。見習ってしっかり広報をやってほしい。

(高校魅力化推進室長)

通信制の学ぶべきところは広報の仕方であり、しっかり見習っていききたい。

広域通信に行っている生徒の多くは3年生になっても不登校を継続している生徒である。

このままだと行ける学校がないと中学校の教員が登校を促すと、生徒やその保護者は高校に進学できないと不安になり、安易に広域通信に進学することがある。一方で、広域通信の授業料の高さや、入学後のフォロー体制のせい弱さを見えないようにしている。

しかし、広報のタイミング・場所は広域通信制の手法に学ぶことがあると思う。そういうことについて各学校に伝えていきたい。

(委員)

学校の取組がうまく広がっていないのではないかと。

大学等では結構同窓会が力を入れて勧誘をしている。高校のPRに卒業生をうまく活用できないか。

(高校魅力化推進室長)

広報としては必要かと思う。広報の回数を増やすことや、学区によって、学力層によって広報を細かく変えているところは成果が出ているということも重要なところだと思う。しかし、学校が行っていることが次世代を見越して大切だと思ってやっていることが前の世代に引き戻されることが実はあつたりする。

小規模校に対して、大学入試・企業の採用の見るところが変わってきていることを、伝えても、なかなかその価値が伝わらないというところは我々も非常に苦い思いをしている。しっかりと学びの変化を中学校や保護者に伝えていく必要があるのではないかと。

以下、非公開のため省略

閉会